

新 村 出 著
○ 船舶史考
京都、更生閣發行

非 賣 品

本書は新村博士の近著である。船の丸號と八幡船考と、蘭船エラスムス丸と貨狄舟、といふ三つの論文を集めて、船舶史考として出されたものである。従つて名は船舶史考であつて實は船舶史の一部であると見てよい。しかし日本の船乗りが中世に活躍した歴史を知るには、この上もない文獻である。丸といふ船の名の源流をしり、八幡船バ、ンの名稱の起原を學ぶ丈けでも、一般讀書子の大なる樂であらねばならぬ。裝訂も念が入つてあるし、紙質印刷共に美しい四六判二百頁未滿のいかにもこつた本である。(藤田)

雜 報

○ 新に生れた米子市

昭和新政の劈頭たる、本年四月一日より新に鳥取縣米子町に市制がしかれた、これで全國の都市は現在百〇二を算する。

米子市は今を去る三百二十餘年前慶長六年、中村伯耆守が入岡して一城市を形成してから町になつた、當初は加茂村と稱し海岸の一小漁村であつた、地名の起りは米生コメウマより轉訛したといひ、又は粟島長者が年八十八にして漸く一子を擧げたので世人之を奇瑞として「八十八の子」で地名米子と改めたといふ、現在の米子市は鳥取縣の西端に位し、東西一里一丁、

南北一里三丁、面積〇・六哩餘である東北南の三方は豊饒なる西伯平野を繞らし西は中海に面してある、山陰線から境線及伯備線の出る起點で更に伯陽及米子の兩電車が本市を中心として近郷に敷設せられて山陰の商工業の中心地となつた、昭和三年度になつて、伯備線が完成したら、本市は益々盛んになるであらう。現在人口三萬一千百四十四人、戸數六千八百四十三戸である。

○ 安房線勝浦上總興津間開通

昭和二年四月一日開

道の延長六軒二六四米六の同線路左の如し

起工 大正十四年九月一日

竣工 昭和二年二月十五日

線路單線 軌間一米〇七〇

勾配 最急一〇・〇

曲線 最小半徑三〇〇米

築堤 總計一四五、四四〇立方米

切取 總計八七、五六〇立方米

橋梁五ヶ所 延長合計三八米一四二

溝橋 十九ヶ所

隧道 十二ヶ所延長一軒三一五米

停車場 鵜原、上總興津

用地 九二、〇〇〇平方米 軌道、第三種三〇町

工事費 一、〇七八、〇〇〇圓一軒當り十七萬二千圓

○ 本邦陶器界の現状

大正十四年十一月第三回全國窯

藥品共進會の報告によれば、京都は古來陶磁器の主産地の一として數へられ古來名工輩出するの歴史あれども、日用品は高價なるを免れず、清水燒の中等品は愛知及岐阜の産に競争し得ざる状況にありたゞ松風工業會社と高山耕山の製品が品質優良なるを以て稱せらるゝを欣ぶべしとす。次に愛知縣は本邦第一の陶磁器産地にして、名古屋、瀬戸、常滑の三ヶ所各特徴を具へ名古屋は輸出向のもの多く瀬戸は内地向を主とし常滑は土管類を産す岐阜縣は各町に互りて價格低廉なる日用品を産し滋賀縣は信樂燒の特産あり火鉢及縁取鍋を主としこの地の原料は他所のものに比して善良にして大形器物を製するに當り成形、乾燥及び、燒成中に於て破損すること割合に尠なき爲山間に傳在するにも不拘、本業の發達を助けたり石川縣の九谷及硬質陶器は日用品と工藝品との中間にありて日用品としては價格高きにすぎ、工藥品としては意匠舊套を脱せず、愛媛縣砥部燒は淡黃磁器の水盤火鉢を主とし印度向の組物井を産す、福岡縣小倉の硬質陶磁器は西洋食器を主とし又衛生陶器を産す、佐賀縣も亦古來陶器の名産地なれども舊法に則るもの多し、其他阿蘇縣の會津燒、栃木縣の益子燒等ありといへども品質未だ優良ならずといふ。

○丹波胡麻の今昔

丹波の胡麻といへば、山陰線の通過する丹波高原の一驛沿線での寒村の一つである。大井川の小支流保野田の溪谷をのぼり、高屋川(即由良川の小支流)にうつらんとする分水界に近い地點にある、上治理學士が嘗て

高屋川の上流畑の溪谷が押し出した洪積期の土砂で、元來東南流した畑川が、高屋川の方へ落ちたので、保野田溪は截頭河となつたといふことを發見された地點である。従つて分水界ではあるが、特に著しい山があるわけがなく、割合に廣い平坦なる原野であり、海拔六百二十九呎といふ停車場の立札を見て驚く程の所である、やゝ低い濕地に水田はあるが、一體に高原であるから灌溉の便がない、従つて松や樺の生えた尾花の原野が廣い。この原野は胡麻からすつと南西の方へ引きつゞき、或は蒲生野或は炭野など見渡すかぎり、不毛の原野が散在して天田郡の長田野に及ぶのである。

こうした丹波高原の一角は自から餘程早く牧場利用され、延喜式左馬寮には丹波國胡麻牧とある。ゴマといふ地名も、駒といふ字からの傳訛で、その胡麻の字牧といふ地點に今は停車場が出来たのである、今昔の感深からざるを得ない。其隣の志波賀といふには式の志波賀神社を鎮座されてある、奈良朝頃にはこの邊一帯牧馬の高原であつた。時移り星變つて應仁以後全く荒廢不毛の里になつたところ、今度は滋賀縣の本戸、紀州の湯淺などいふ民族が來り住んだと見え、今日の地方に本戸氏や湯淺氏といつた名門がある、しかしこの中世以後の名門は主として山林と農(水田)を主として生活したために、牧馬の昔を思ひ出すやうな活動は最近までしなかつたのである。いかにしても洪積不毛の原野で手をつけるすべさへ知らなかつた。ところが汽車がついた、折角の原野が不毛であるのを惜んで兵庫縣の一農民がやつてきて、村民が

誰も手をつけなだ不毛の荒野約一町を借地して、そこに樹苗栽培をやつたところ、地味肥沃で、年々千圓からの利潤をあげるやうになつた、外に半町程の畑地を借地した某氏はこゝで花卉の種をつくりだした、地味亦之れに適して、こゝも年々千圓以上の収入がある。今更ながら無智であつた村民の目が醒めかけてきたとき、停車場附近三十町歩の荒野をトして、大規模に牧牛場を経営せんと、これ又大阪府豊能郡豊中の人によつて計畫されることになつた。新しい鐵道が開通以後二十年にして漸くこの荒寥の高原に、適當なる新生命を附與せんとしてゐる。是に先つて、須知町は蒲生の原野に飛行場を計畫したり、競馬場を計畫したが、さうした投機的行爲は、この神聖な高原には不向であつたと見えて、何等の新生命とはならなかつた、しかし今度この牧牛の計畫は、恐らく丹波の駒の牧の昔の繁榮を取りかへすに尤も好適の事業であるらしい。一寸したことであるが、胡麻の隣の殿田の牛肉は、山陰線第一の美味で、安價の評が高い。よくきくと殿田の牛肉屋松尾氏は自家の販賣する牛は、他國から一旦買取つて歸つて、それをこの村の美ばしい延喜式以來の牧草で飼つて、一旦肥やしてから龜岡の居牛場に運んで、其肉を持歸つて賣却するのださうな、従つて一等ロースが八十錢京都市内の一等百目一圓二十錢のものよりも遙かに美味な牛肉が賣られる、京へくる人がこれを土産に持つてゆくといふやうになつてきたとの事である。交通機關の發達がこうした丹波高原の生業に新しい生活を與へてゆく道筋は、いかにも迂遠

で、山河千年其姿を變じないやうには見えるが、それでもこゝに徐々に新しい産業の變化を示めしてゆく傾向が看取されるではないか。經濟地理上注目すべき現象だと思はれるので、こゝにこれを特記しておくのである。(藤田)

○米國乾錫の支那へ新入荷

從來支那へ輸入の干錫はすべて日本品北海産にして、一九二六年上海へ輸入した數量は五七、一七一擔、内日本品三八、三二八擔約五割二分五厘、土産品として寧波から一七、五二四擔、膠州から六八八擔芝罘から三五二擔ある外、殆ど我國の獨占的商産であつたしかるに近年米國の輸入旺盛につれられて、昨年度はじめて米國から試験的に十五擔の干錫が入つてきた。本年度になつて上海に居る邦商永和洋行は米國取引筋から四百擔の干錫を輸入し今は米國品の宣傳時期に入つてきた。

米國のスルメは比較的倭小で、肉薄く長短不問で、北海道の夏採錫に類似する、外見良好ならざるも、香味は格段の差がない、最近には檢詰正味百二十封度、原價は運賃が高いので上海着約四十六圓見當である、北海道晩秋産百斤三十六兩五匁に比し、米品高値百斤三十二兩五匁だから、有力な競争品である、長江筋の贅澤な需要家には不向であるが、江西から、福建南支方面には賣れる見込である、とにかく我國の商品に對する大なる敵であると思つてよい。

○ブラシルの養蠶業

ブラシルの南部の氣候は養蠶に適するので十數年前にミナスゲラエス州バルバセーナに蠶業試験所を設置したが、爾來發達の見るべきものがあり、セントパウロ州もカンピーナス市の州立農事試験所で養蠶の奨

勵をはじめた、蓋しこの兩州は土壤桑樹の發育に適し、野生の桑で高きは數米突に及ぶものがあり、加之常春の氣候で一年六回或は其以上の收穫を容易ならしむる、従つて當地方の珈琲耕地労働者の婦女子の副業として、利益多きのみでなく年々轉々として耕地を變更する労働者の足止ともなつて、近來耕主の注意に上つてきた、故にカンヒーナス郡では五千本以上の桑樹を栽培するものに「コントス」五百「ミルレース」の奨励金さへ附與するやうになり、各郡これに類似の方法を講じだしてきた、日本の移民が先方へ行つて、一つ旗上げをするにも都合よいことだと思はれる。目下翠州内には三十ヶ所の生糸工場が出来てあるといふことである。

○ 團員工學博士理學士比企忠氏の逝去を悼む

昭和二年六月廿三日 地球學團

質疑應答

〔問〕「クラトージェン」

〔答〕 ヨーベルが一九二一年の *Der Bau der Erde* の著書中に「オロゲン」との地質學的對語として新に述べた術語であつて「簡單に言へば既に凝固せる地殻であつて、オロゲンは之れに對し未だ凝固せず従つて此處に作用する壓力に依り褶曲し山脈を構成する脆弱なる堆積層である。第三紀のアルプ

ス褶曲運動を起した運動に就いては、スペイン及びフランスの地中海沿岸、アフリカのアトラス山脈、アルプス、カルパチア、ゲナルアルプス、小アジア、ヘルシヤ、ヒマラヤ、ピルマ、スマトラ、ジャバ及ボルネオ等の山脈地帯をオロゲンとし其の南北兩側の陸地をクラトージェンと稱して居る。

(本問)

(愛知生)

〔問〕イベリア半島の氣候

〔答〕 イベリア半島の氣候現象の依つて來れる理由を説明して下さいといふ質問に接しました、六ヶ敷理由もありませぬこの半島が高原であるといふ地形學的因子と、其周圍に海があつて暖帯に位してあるといふ氣象學的理由のコンビネーションが、この半島の氣候を決定したので、即ちこの海洋の影響は、この半島の北及北西部から西の端にしか及ばない程に内部は高原性で *Meseta* といふ地域になつてゐる、メスタは低い盆地を限つて高い「リツチ」が並行に走つて、多くの盆地をつくる地形である、低い盆地の周圍には、高い山嶺があるから外からの氣候の影響が及ばないさうした山脈は *Sierra Guadarrama* *Sierra Morena* など、云はれてゐる。かうした地形で氣候は極端に大陸性であるから *Meseta* は一般に沙漠性なのです。しかし半島の北にカンタブリアン、ピレニール山脈が東西に亘つてゐるので、ピステール灣沿岸は海洋性であり、西歐洲の氣候と同様に降雨量も多いのですが、半島の大部分は所謂地中海式氣候圏内にあるから、東北貿易風の爲めに夏は降雨がないし、冬は暖帯圏が南に下つて、この邊は西